

現地実証事業

令和6年5月20日

1. 現地実証事業の背景と目的

背景

クルーズ船の寄港地では、陸上の二次輸送（バス・タクシーなど）不足の懸念があり旅客輸送手段の分散化が求められている状況にある。

目的

本現地実証事業では、バス・タクシーに代わる二次交通手段としての小型船の利用促進を図るために、小型船とクルーズ船間の円滑かつ安全な旅客移動に向け、クルーズ旅客受入施設の適正な配置に関して、実証実験を行い、「二次交通としての小型船利用促進に向けた旅客動線のあり方」を検討する。

2. 検討ケース(旅客移動の現状から3つのケースを想定)

- 現地での実証にあたっては、クルーズ船から小型船への旅客移動を検討する際に以下の3つのケースを想定する。

ケース1

クルーズターミナルが整備されている場合
(クルーズ船から小型船の係留施設までの距離が短い)

ケース2

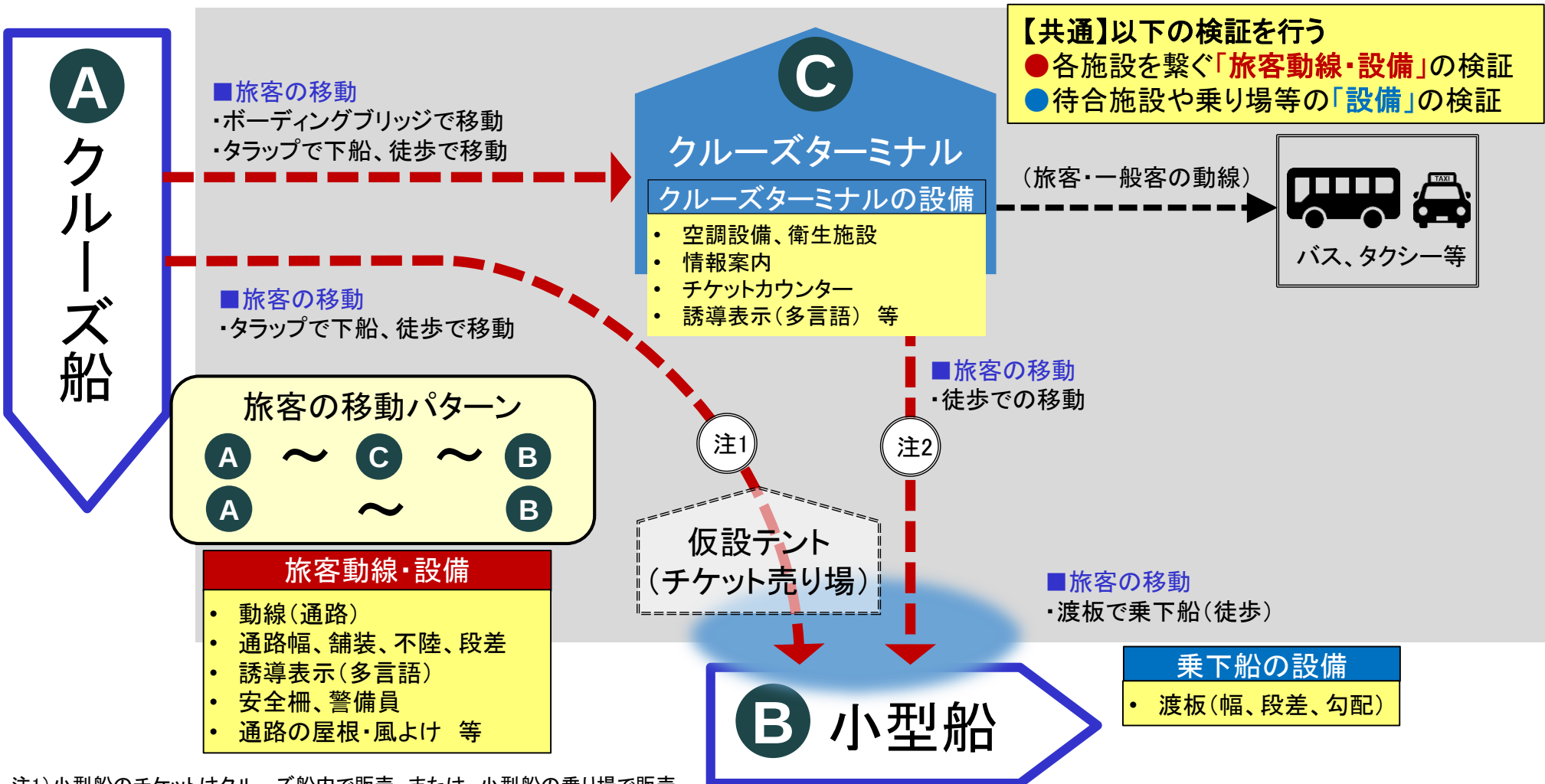
クルーズターミナルが整備されている場合
(クルーズ船から小型船の係留施設までの距離が長い)

ケース3

クルーズターミナルが整備されていない場合

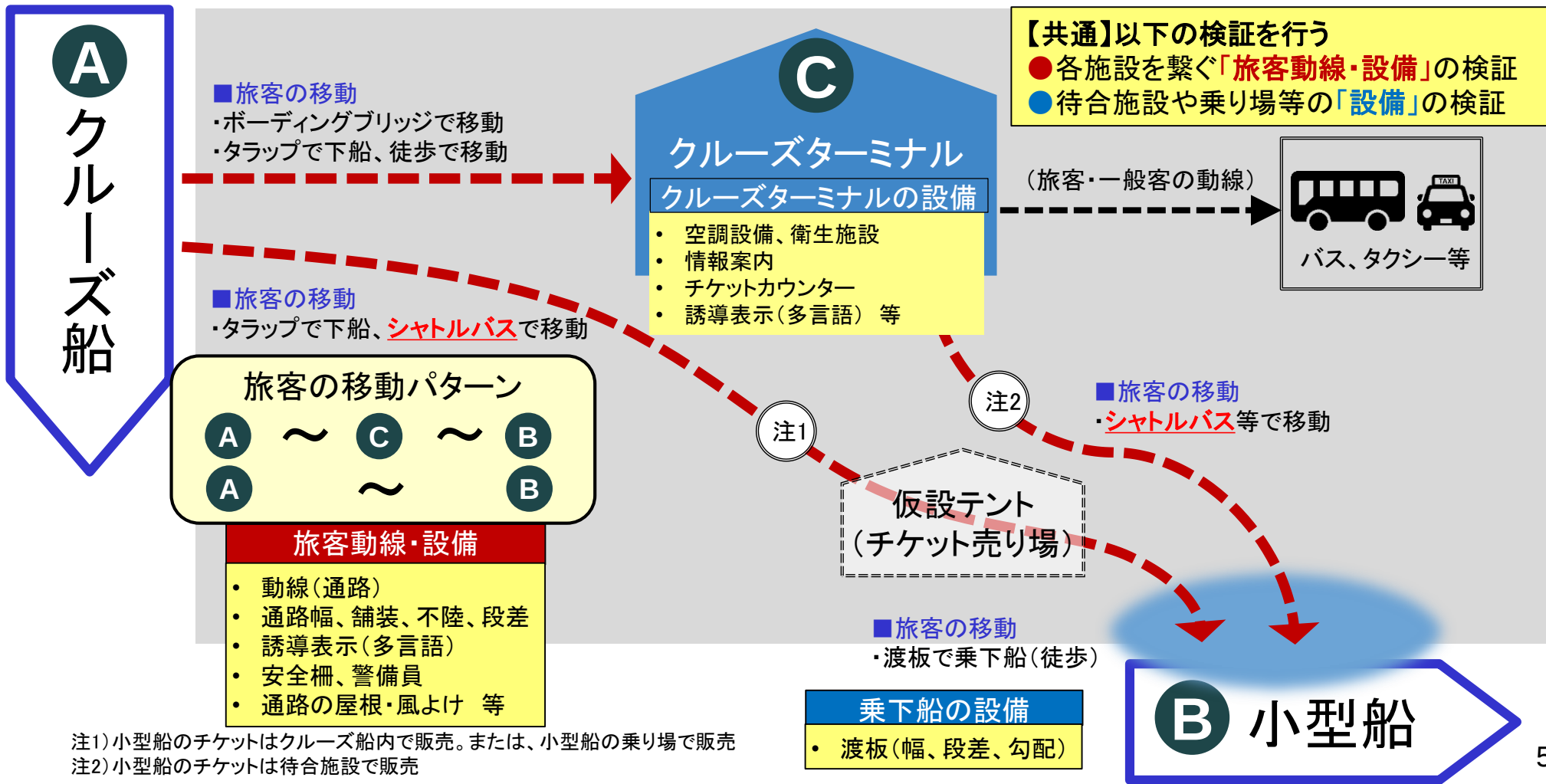
3. ケース1 <クルーズターミナル有り: 移動距離は短い>

- 想定するクルーズ船から小型船への旅客移動パターン。
 - ①待合施設を経由するパターン(一般客と混成した移動となる)
 - ②直接小型船に移動するパターン(一般客と分離した移動となる)



4. ケース2 <クルーズターミナル有り: 移動距離は長い>

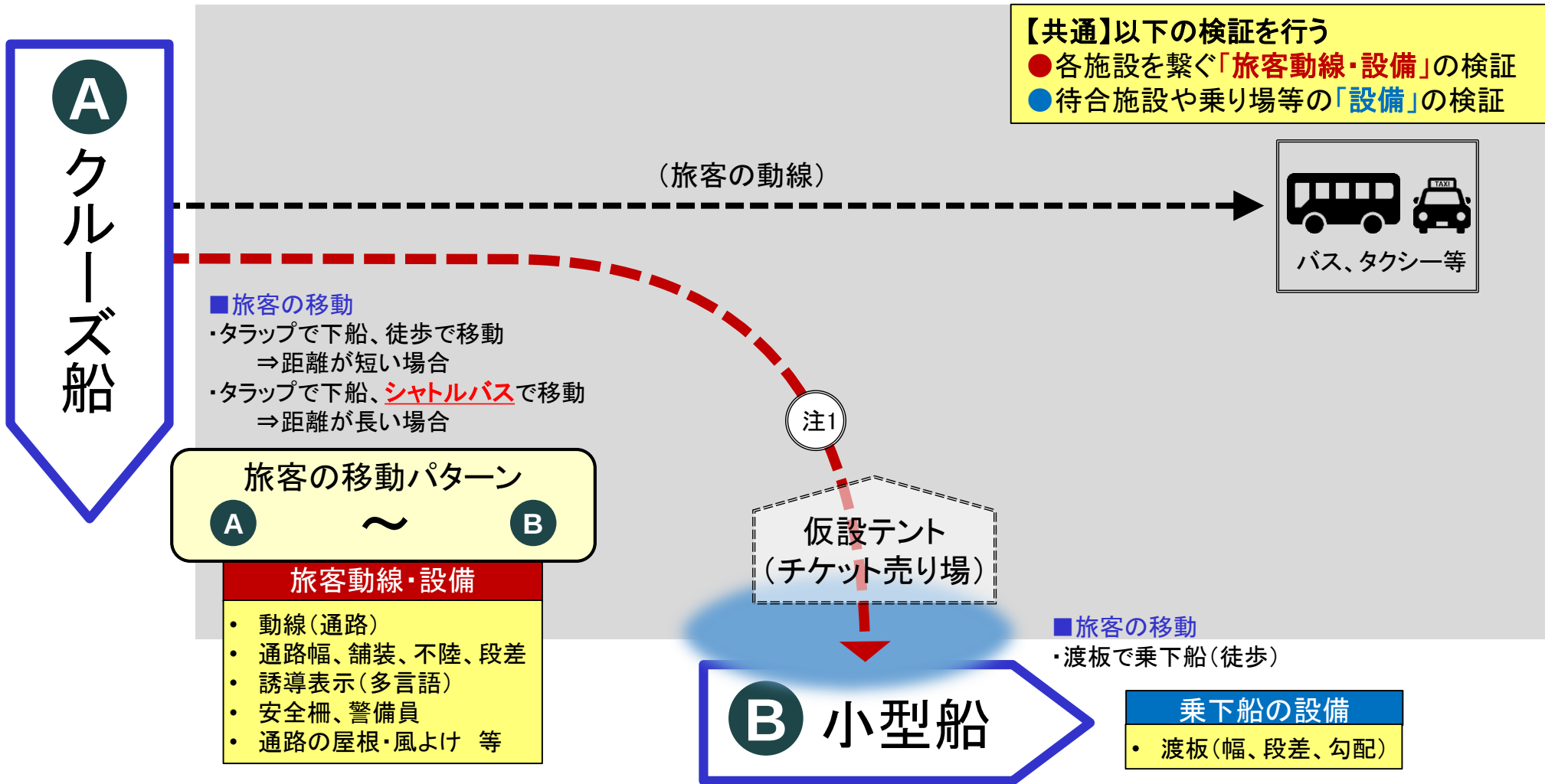
- クルーズ船から小型船への旅客移動は以下のパターンとなる。
- ①待合施設を経由するパターン(一般客と混成した移動となる)
- ②直接小型船に移動するパターン(一般客と分離した移動となる)



注1) 小型船のチケットはクルーズ船内で販売。または、小型船の乗り場で販売
注2) 小型船のチケットは待合施設で販売

5. ケース3 <クルーズターミナルがない場合:移動距離は短い>

- クルーズ船から小型船への旅客移動は以下のパターンとなる。
- ①直接小型船に移動するパターン(一般客と分離した移動となる)



注1) 小型船のチケットはクルーズ船内で販売。または、小型船の乗り場で販売

6. 必要となる設備の検討方針(各ケース)

- 小型船への旅客移動に必要なとなる設備(クルーズターミナル内、旅客動線周辺、小型船乗り場)については、「利便性」、「安全性」の指標に応じた「検討の観点」、「検討の方針」によって検討する。

指標	利便性	安全性
検討の観点	クルーズ旅客、誘導者(添乗員等)が少ない労力で快適に、ストレス無く移動できる計画とする。	高齢者や車椅子の使用等の様々な旅客に配慮した計画とする。
検討のポイント	● 移動距離、移動手段 ● 誘導表示(多言語) ● 天候への対処 (日差し、雨、風)	● バリアフリー ● 路面の状況(不陸、段差) ● 安全柵、照明 ● 貨客分離、警備員
検討の方針	● 利便性の観点から、移動距離や移動方法(荒天時等の対応も含む)を検討する。	● 移動に対し、高齢者や車いすの使用等を想定して検討する。 ● 小型船に対する上記については、補助者による対応を考えていく。
配慮事項	施設整備は運用にあたっての「経済性」も配慮する	

7. 「利便性」に着目したチェック項目(案)と視点

- 「利便性」について、机上検討および現地確認を実施し、クルーズ旅客受入施設の適切な配置等に関して検討を行う。

1. 利便性(少ない労力で快適に、ストレス無く移動できる)

	確認対象		視点
クルーズ船	①	ボーディングブリッジ	有無、円滑な乗下船の確認
小型船	②	小型船の接岸場所	クルーズの近くへの接岸の可否
	③	小型船への乗下船	円滑・快適な乗下船の可否
	④	小型船の乗り場	待機スペースの有無、屋根、椅子等の有無
	⑤	小型船乗り場への移動	専用通路、屋根、誘導表示
動線	⑥	移動距離(m)	徒歩範囲の距離
	⑦	移動時間(min)	「移動距離」から机上で計算(徒歩、車いす、バスの3ケース)
	⑧	移動の円滑性	勾配や階段などの障害の有無
情報提供	⑨	わかりやすい情報提供	サインや看板が適切に配置されているか(内容とわかりやすさ等)
快適性	⑩	衛生施設	トイレ ・洋式トイレか ・車いす対応、授乳室の有無
	⑪	室温の管理	待合所の空調設備の有無
	⑫	港湾周辺の印象・景観	空間・景観が確保されているか(芝生広場等スペース、植栽)
	⑬	臭気・騒音等	小型船乗り場周辺の臭気・騒音等の有無

8. 「安全性」に着目したチェック項目(案)と視点

- 「安全性」について、机上検討および現地確認を実施し、クルーズ旅客受入施設の適切な配置等に関して検討を行う。

2. 安全性（高齢者や車椅子の使用等の様々な旅客への配慮）

	確認対象		視点
小型船	①	乗下船施設	安全な乗下船が可能か
動線	②	移動路の路面	高齢者や車椅子でも安全に移動できるか ・段差がないか（アスファルト段差、ケーブル等の横引きなど） ・幅は十分に確保されているか ・滑りやすすくないか
	③	貨客分離	荷役のフォークリフトやコンテナ車両等の動線と交差していないか
	④	照明器具	夜間対応が必要か
	④	天候への安全性	・雨風が防げるか（移動距離を勘案） ・日陰の確保（移動距離を勘案）
	⑤	動線上の施設	埠頭上で自動販売機などの水分補給ができる施設があるのか

9.【参考】国内のクルーズ旅客用二次交通としての小型船舶活用事例

- ・ 鹿児島港ではクルーズ船のオプションツアーのメニューとして、チャーター船に乗船し大隅半島の観光をするツアーが組み込まれている。
- ・ 八代港は、天草までのフェリーを運航する実証実験を行っている。

【鹿児島港】



概要	MSCベリッシマのオプションツアーとして、チャーター船に乗船し鹿屋港に向かい、大隅半島の観光をするツアーを実施
チャーター船	鹿屋港までの乗船時間約50分

【八代港】



概要	八代外港のクルーズ船入港日に合わせて、2013年をもって廃止した「天草(前島港)～八代港」が期間限定で運行した。 前島港から、天草地区の観光スポットや、イルカウォッチングツアーの発着地にアクセスできる。
フェリー	一日約4便、前島港までの乗船時間約30分
フェリーターミナルまでの距離	車で約5分、徒歩約40分